

ホッキョクグマの個体数、今後 35 年で 30%超減少の恐れ 研究

2016 年 12 月 07 日 15:14 発信地：パリ/フランス



北極圏で、氷上をジャンプするホッキョクグマ。米沿岸警備隊提供（2015 年 8 月 23 日撮影、同月 24 日提供）。(c)AFP/US COAST GUARD/Cory J. Mendenhall

【12 月 7 日 AFP】温暖化が進む北極圏で海氷が縮小し、今世紀半ばまでにホッキョクグマの個体数が 3 分の 1 減少する恐れがあると警告する研究論文が 7 日、英国王立協会 ([Royal Society](#)) の専門誌バイオロジー・レターズ ([Biology Letters](#)) に掲載された。

論文によると、世界全体で 2 万 6000 頭と推定されるホッキョクグマの個体数が今後 35 年で 30%以上減少する確率は 70%に上るという。

他の調査でも同様の結果が示されており、国際自然保護連合 ([IUCN](#)) が作成する世界の野生動植物の絶滅危機の度合いを示す「レッドリスト ([Red List](#)、絶滅危惧種リスト)」でも、ホッキョクグマは絶滅の危険が増大している「絶滅危惧II類」に分類されている。

今回発表された論文はこれまでで最も包括的な内容で、35年間の北極圏の海氷の衛星データと、北極圏に4か所ある生息域に散らばる19のホッキョクグマの群れの移動状況を組み合わせ、結果を算出した。

論文は「ホッキョクグマは生活の大部分を海氷に依存している」と指摘している。最も重要なことは、開けた海域ではホッキョクグマより上手に泳ぐアザラシを捕獲するため、ホッキョクグマは海氷を海に浮く小さな栈橋として利用していることだ。(c)AFP/Marlowe HOOD

<http://www.afpbb.com/articles/-/3110465>